

**平成 30 年度 特定非営利活動法人そよかぜねっと
やすらぎ工房 事業報告**

1. 理事会・通常総会開催

- (1) 第 1 回理事会 (4/26) 常勤職員就業規則の改定・賃金規程の策定・30 年度収支予算・監事監査・通常総会について
- (2) 第 2 回理事会 (12/14) 処遇改善加算 I 取得に向けた検討・グループホーム設置に向けた経過報告及び検討・利用契約書の変更・施設外就労案件について
- (3) 第 3 回理事会 (2/22) 2019 年度職員給与の改定・職員の人事・事業計画、法人理念・B 型事業利用者推移・ホームページのリニューアルについて
- (4) 通常総会 (6/25)

2. 運営状況

(1) 利用者数

1 日平均利用者数：18.0 人 (29 年度：19.2 人)

利用者延人数：4,505 人 (29 年度：4,868 人)

(2) 開所日数

250 日 (29 年度：253 日)

(3) 就労をめざすための場づくり

・施設内作業

自動車部品の組み立て・検品、紙袋の底入れ・折り・封入、換気扇組み立て・検品・梱包、梱包資材の組み立て、輸出用刃物の検品・梱包、釘の袋詰め・漁具の組付・リサイクル等 8～9 種類の作業を施設内で行った。

作業種類・物により保管場所を確定し、見取り図や番号表記を行い混乱やケガの防止に努めた。

・施設外作業

ワークルーム虹 (庁舎内事務軽作業)・サクセス (衣類の選別)・東光機材 (簡易な部品の組み立て・梱包) の 3 か所で施設外作業を行った。

・工賃実績

平均工賃：11,520 円/月 11,479 円 (29 年度) 10,589 (28 年度)

・就労希望者への支援

① 部品の並列作業・梱包

【就 労】アルバイト

・40 代男性 1 名 /9 月 1 日より就労 (現在継続就労中)

② 事務補助

【就 労】嘱託職員

・20 代男性 1 名 /10 月 1 日より就労 (現在継続就労中)

③ 調理

【就 労】

・20代男性 1名 /1月より就労（現在継続就労中）

※職業指導員が月1回定期的に就労者を訪問。企業側からの電話、訪問での相談にも対応。

（4）安心して過ごすための場づくり

① いつでも相談が受けられる体制

メンバーの方からの個々の相談には原則、開所時間内であればいつでも受けられるようにした。

また、個々の職員が受けた相談事項は職員全体で対応の方向性を話し合った。

② 居場所としてくつろぐための環境整備

地震災害などでの什器の転倒を防ぐため、1階作業室2部屋の什器類の固定を行った。

③ 生活リズム、日中活動力の活性化を促す

1年を通し、希望者を募り月に1回3名程度のグループを作り家庭でもすぐにできる調理をテーマに調理実習を行い、自宅での食事の幅を広げることを目指した。また、調理実習の時間を活用し、毛布やカーテンを洗濯するなどを通し洗濯機の使い方、洗ったものの干し方、片づけ方なども身近なことから挑戦していった。週2回の掃除でも、一人一人の掃除内容が偏る・固定されていることから、様々な掃除場所に挑戦できるように声掛けを行い、自己選択の幅を広げる機会を作るよう心掛けた。

④ 高齢期の利用者への年齢に合わせた対応、新たな環境の提案

体力、活動の様子などを含めて検討し、施設の外での活動を段階的に縮小、終了し、負担の軽減をおこなった。また、65歳が近づいた段階で計画相談事業所も交え介護保険への移行も含めて話し合いの機会を持った。

（5）主体的に活動できる場づくり～社会参加の一環～

① 土曜日開所の継続実施

地域行事を含め年間137名（月平均12名）が参加。少し遠出の外出や近場での外食、作業所内でゆっくりとレクリエーションなど、平日にはできないことを、1年を通して実施。

② 地域行事への参加

今年度、青山夏祭り・文化祭、緑が丘文化祭、はばたき祭りに参加。毎年恒例の行事に参加する中でメンバーさんの作業所以外の人とのコミュニケーションの機会も場ともなった。

また、三木市役所3Fの展示ケースの一部を借りて販売し、毎月定期的な売り上げとなった。29年度に展示ケースは市に返却し、30年度は地域行事・障害者週間など期間限定での展示販売を行った。

（6）地域への啓発活動

① 「そよかぜねっと通信」の発行・配布

本年度は年2回（7月・3月）発行。精神障がい者の医療・福祉をめぐる情勢を伝えると

ともに、
精神障がい者への理解・啓発に努めた。

② 「やすらぎニュース」の発行・配布

本年度は年7回（5月・6月・7月・9月・11月・1月・3月）発行。主にやすらぎ工房との取引先とのつながりや当事者の声、障害福祉関連情報を掲載し、やすらぎ工房を知ってもらえるよう努めた。

③ ホームページの運用

31年4月のリニューアルに向け、必要な情報内容の検討を行い、内容の充実に努めた。

(7) 支援のための体制づくり

① 職員体制の確立及び充実

ア) 職員の配置状況（3/31現在）

管理者兼サービス管理責任者	1名（兼務可）
職業指導員	1名
目標工賃達成指導員	2名
生活支援員	3名
事務員	1名

イ) 異動状況

退職：目標工賃達成指導員1名（3/25付）

採用：生活支援員1名（3/13付）

ウ) 資格取得

精神保健福祉士1名

② 職員研修報告

研修内容	主催者	人数
虐待対応研修特別プログラム	兵庫県社会福祉会	1
兵庫県高次脳機能障害リハビリテーション講習会	リハビリテーション講習会実行委員会	2
ジョブコーチ研修	NPO 法人全国就業支援ネットワーク	1
障害者就労施設工賃向上セミナー	公益財団法人神戸やまぶき財団	2
第2回しごとフェスタ	三木市地域自立支援協議会	4
第15回障害福祉セミナー	三木市	2
地域包括ケアシステム推進研修会	加東健康福祉事務所地域保健課	1
精神疾患からのリカバリー志向の家族関係	兵庫県精神保健福祉家族連合会	1
三木精愛園セミナー	（社福）兵庫県社会福祉事業団三木精愛園	2

口腔ケア研修	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター	1
障害者雇用支援の基本を学ぶセミナー	大阪障害者雇用支援ネットワーク	2
職員合同研修会	NPO 法人みちくさ	1
高次脳機能障害のある方の就労支援について	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター	1

(8) ボランティアの受け入れ

やすらぎ工房内の作業・各種行事支援の為に、延べ81人のボランティアを受け入れ。

3. 新規事業参入

平成30年11月1日付で就労定着支援事業を開始。12月より対象者を受け入れ。現在3名の方が定着支援を利用。定期的な企業への訪問により、企業との関係性を強化し当事者の就労継続に向けた企業側へのアプローチ及び当事者への聞き取りや体調管理へのアドバイスを行い、安定した就労継続に向けた支援を行った。次年度より、他事業所を利用していた方も定着支援の受け入れを行っていく。

4. 助成金収受

- ・公益財団法人神戸やまぶき財団より車両購入事業助成金2,240千円を収受（31年2月）
- ・走行距離の高いセレナの後継車両として送迎車両を1台導入（31年4月）

5. 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	就労継続支援B型事業所「やすらぎ工房」の運営	月～金 9:00～ 17:00	法人施設	8名	三木市及び周辺地域で在宅生活をする精神障がい者等 延べ 4,505人	35,490
	就労定着支援事業の運営	月～金 15:00～ 17:00	法人施設 契約者自宅企業	3名	就労定着支援を利用する対象者及び就労先企業の担当者 延べ 7人	
精神保健福祉等に関する啓発事	法人機関紙並びに広報誌の	年6回	法人施設	10名	地域住民及び市民、関係機関	

業	発行				延べ 1,000 人
精神障がい者等 と地域住民との 交流事業	バザー・地域 イベントへの 参加	年6回	法人施設 地域	30名	地域で生活す る精神障害者 等 延べ 300 人